

※日朝首脳会談の経緯についての質問

○辻泰弘君 民主党・新緑風会、辻泰弘でございます。

限られた時間でございます。まず冒頭、田中アジア大洋州局長にお伺いしたいと思います。

九月十五日の全国紙の「ひと」の欄で、「いま、外交官として、本当に面白いと思っている」というふうに語っておられます。今もその心境に変化はございませんか。

○政府参考人（田中均君） 私は、外務省の職員として外交というものに熱意を持っておりまして、それぞれが与えられた仕事を全力をもってこなしているというつもりでございます。ですから、私は自分の仕事に常に興味を持ちながらやっているということについては全く変わりはありません。

○辻泰弘君 同報道に、「国交もなく、日本を敵視してきた国に、いきなりトップを訪問させる今回の荒業」に対して、元上司の方々が、「やり方に危うさはあるが、田中だからここまでできた」と、こういう指摘をされているのを拝見しております。一方にあるそのような評価を承知しつつ、その指摘にもある危うさに関して御質問したいと思います。

以下数点、田中局長にお伺いいたします。簡潔なコメントを賜れば幸いです。まず、首脳会談をピョンヤンでやること、そのことが拉致被害者の安否情報提供の条件だったのかどうか、まずお伺いしたいと思います。

○政府参考人（田中均君） 御質問のような事実はございません。

これは外務大臣会合、局長会合その他、赤十字会談もございませぬけれども、正に私どもが一貫して求めてきたのは、この拉致の問題についてきちんとした安否情報を全体として出すということであり、拉致を認めるということでございます。こういう交渉をずっと続けてきた結果、首脳会談を行うというのが適切であるという御判断を小泉総理大臣がされたということでございます。

○辻泰弘君 そういたしますと、事前に安否情報は全くなかったということでございますね。

○政府参考人（田中均君） 日本側の要求として一貫してきたのは、正にこの拉致の問題についてきちんとした調査をして、その調査結果に基づく安否情報を出すということを要求はしてまいりました。しかしながら、その内容については十七日まで承知をいたしておりませぬ。

○辻泰弘君 局長も当日初めて知られたということですね。

○政府参考人（田中均君） 御指摘のとおりです。

○辻泰弘君 私は、訪朝に当たられてやはり外交交渉の在り方としてあらゆるケースを想定しているということがあるべき姿だと思うんですが、申し上げにくいことですが、最悪のケースというものを想定しての対応ということは考えていらっしやらなかつたんでしょうか。

○政府参考人（田中均君） 私どもがやってまいりました交渉というのは、これまで拉致の問題について、行方不明者の調査であるとかそういうことはございましたけれども、実態的には、過去、拉致問題を取り上げてから十年を超える間、何事も動いてこなかった、したがって、これを何とか打開しなければいけないということが交渉の基本的な目的であり、したがって、これは局

長会合のときもそうでございますけれども、今ある日朝間の懸案、その最たるものが拉致問題でございますけれども、こういうものを包括的に解決をしていく交渉ということが可能かどうかということを見極める、そのために日朝の首脳会談をやるという形で総理が判断をされたということだと思います。

○辻泰弘君 田中局長は、交渉が再開すれば比較的短期間にまとまると、このような発言をされているようですが、総理が訪朝された首脳会談後のこれまでの推移というものの、国内の反応というのは、当初の想定どおりだったでしょうか。

○政府参考人（田中均君） 私が申し上げましたのは、日朝正常化交渉が九一年に始まって十年以上何の問題も解決できなかった、そういう状況に比べれば、交渉のための前提条件をきちんとした結果、従来に比べてより速いスピードで物事を解決することができるのではないかという見通しを述べたわけであります。

しかしながら、当然のことながら、拉致問題というのは徹底的に解明がされていかなければいけない、北朝鮮との関係で、核疑惑の問題であるとかミサイルの問題というのは解決されなければいけない、その結果として正常化、そういうことがあるということだと思います。

ですから、問題は早く遅くということではなくて、そういう諸懸案をきちんと解決する努力が大事だというふうに思っていますし、現在、政府の方針はそういうことだと思います。

○辻泰弘君 外務大臣にお伺いいたします。

外務大臣は、この総理の訪朝、八月三十日の発表でございましたけれども、これをいつ知られたのでしょうか。

○国務大臣（川口順子君） いつという日にちは覚えておりませんが、この総理の訪朝につながる事前の様々な過程におきまして、私は外務大臣就任以降、この過程については随時報告を受けております。

○辻泰弘君 外務大臣御就任以後、すぐぐらいからということでしょうか。

○国務大臣（川口順子君） 様々な過程があったわけでございますけれども、様々な過程については報告を受けております。

○辻泰弘君 八月に受けられたということではございませんか。

○国務大臣（川口順子君） 就任以降ずっと受けております。

○辻泰弘君 今回の一連の外交交渉を見ますときに、率直に申しまして官邸主導といたしますか、局長と官邸主導の説明なき密室外交と、こういう指摘があるわけですが、こういう御指摘についてどうお考えでしょうか。

○国務大臣（川口順子君） まず、外務省の中において局長主導であったということではございませんで、これは外務省の中で局長の上に立つ者がしかるべくこれは報告を受け、指示をして進んできた話でございます。

それから、官邸主導ということにつきましては、これだけの重要な外交案件につきましては、これは正に官邸と御一緒にといたしますか、政府が一体となってやっていく話でございますから、そういう形で動くべきだと思いますし、動いていると思います。

○辻泰弘君 安倍官房副長官にお伺いしたいと思います。

八月三十日に発表された首相の訪朝計画、これをいつお知りになったのでしょうか。

○内閣官房副長官(安倍晋三君) 総理訪朝発表前のしかるべきタイミングで連絡を受けました。

○辻泰弘君 しかるべきというのを説明していただけませんか。

○内閣官房副長官(安倍晋三君) それは発表の当日の朝でございます。

○辻泰弘君 八月三十日の朝ということですね。

○内閣官房副長官(安倍晋三君) はい。

○辻泰弘君 もう一点確認させてください。安倍官房長官が死亡年月日記載の安否リストを知られたのは、北朝鮮から帰国された後だったというふうに理解してよろしいですか。

○内閣官房副長官(安倍晋三君) 帰国後でございます。

○辻泰弘君 安倍官房副長官のインタビューに、宣言文の最終文書や死亡年月日を私が知らなかったのはたまたまだというふうな御指摘があるのでございます。今回のその歴史に残るであろう一大行事に同行されて、かかわられたほんの一握りの数少ない政府首脳の方に、事務方から極めて重要な情報が届かないまま帰国されて、その後知られたというのは非常に理解できないことなんです、この点を御説明いただけませんか。

○内閣官房副長官(安倍晋三君) 当日は限られた時間の中で首脳会談、そしてまた平壤宣言の調印、そしてまた記者への発表ということが私ども限られた人数の中で処理をしていかなければいけないという中であって、私は記者へのブリーフの準備がございまして、ずっと席を外しておりました。その中で、限られた時間の中でいろいろな作業をしなければならない、そういう中で起こったことだと思います。

ちなみに、安否リストにおきましては、私の秘書官にはこの安否リストの死亡日時が入ったものは渡されていたわけですが、しかし、それはお互いのそごがございまして私には渡らなかったということでございます。

○辻泰弘君 ここで、ちょっとパネルをごらんいただきつつ御質問申し上げたいと思うんです。立たせていただきます。(図表掲示)

実は、九月の十八日に夕方のテレビで放映がございまして、こういう解説がなされて、それでこういうビデオが放映されたわけでございます。今朝の、今朝はというのは九月十八日でございますけれども、今朝の北朝鮮の新聞には片隅に小さく日本側からお土産が持ち込まれたと記されていたと、一方、昨晚、小泉総理の帰国便から運び出されたマツタケと書かれた箱、しかもトラック二台を一杯にする量だった、日朝平壤宣言まで至った昨日の歴史的会談、しかし国民が本当に知りたいことがいつ明らかになるのかは不透明なままだと、こういうテレビでの放映がございました。

また、別の報道では、九月十七日午後十一時半ごろ、政府専用機が到着した羽田空港で、外務省職員ら約十人が同機から運び出された段ボール箱約三百個を空港ロビーに横付けされた二台のトラックに運んだ、段ボール箱にはハングルとマツタケの絵が印刷されていたという、こういう報道がございました。また、大量のお土産の中身をチェックしたいという日本側の意向が北朝鮮側に拒否をされて、中身のチェック、セキュリティチェックもしないまま飛行機に積み込んだ

というふうなことも伝えられているわけでございます。

この件について、経緯、現状、安倍官房副長官、御説明いただけますか。

○内閣官房副長官（安倍晋三君） 私は、その件については一切承知をしておりません。

○辻泰弘君 承知していないということは、この問題は拉致議連でも取り上げられて、外務省の齋木アジア大洋州局参事官が事実関係を調査し結果を報告したいと回答されているわけですね。これはどう調査されているのでしょうか。それは外務省マターでやるということですか。

○内閣官房副長官（安倍晋三君） 私自身は、全くこの今、委員の御指摘の件については、全く今の段階で知らないということです。

○辻泰弘君 十月四日に、福田康夫官房長官は、記者会見で聞かれて、承知しないと述べておられるわけです。ですから、この四日の段階で官房副長官もそういう問題があるということは当然知っておられる。外務省の方は調査をして結果を報告したいと、こうおっしゃっているわけで、その問題の所在というものを、そういう指摘があるときに、官房長官ではありますけれども、安倍さんではございませんが、当然どういうことであったのかというのは調べて当たり前だと思うわけですが、いかがですか。

○内閣官房副長官（安倍晋三君） 私にはそういう指示がございませんから、私も全くそれを知らないということでございます。

○辻泰弘君 しかれば、こういう問題についてだれが責任者だったんでしょうか。

○内閣官房副長官（安倍晋三君） その事実そのものがあったのかどうかということは、私も今申し上げましたとおり全く存じ上げないわけございまして、そういう積込みを担当していた者がだれかということについては、今、私もつまびらかではございません。

○辻泰弘君 この件については、別の報道でこういう指摘がございます。羽田からそのまま築地の、築地市場の冷蔵庫に運ばれ保管されていると、拉致事件への国民の怒りがすさまじく、とてもマツタケを配ることはできない、一方で、北朝鮮の手前、廃棄処分にもすることもできない、結局マスコミに感づかれないようにこっそり隠し、ほとぼりの冷めるのを待って処分するしかない、このようなコメントが出ているわけでございます。

これが事実としますと、保管料は当然国民の税金で賄うことになるわけございまして、こういう問題は外務省と内閣お得意の官房機密で対処するつもりなのかと、このように思うわけですが、そういう事実はないか、はっきりと調べて御説明をいただきたいと思うんですが、いかがですか。

○内閣官房副長官（安倍晋三君） 私も、今日まで帰国以来、まず生存者の方々の早期帰国を実現すべく最大限の努力をしております、それに没頭してきたわけございまして、そうしたことは一切私も承知をしておりません。

また、いずれにいたしましても、そうしたお土産のやり取りにつきましては、外交上それは間々あることでございます。これは一般論でございますが、その中身を公表することが外交儀礼上果たしていいのかということは議論があるところだと、このように思います。

○辻泰弘君 この件を見ますときに、総理の訪朝全体を冷静に見詰めてしっかり仕切っていた人がいたのかどうかと、このことに思い当たるわけで、疑問に思わざるを得ないわけでございます。

全体を仕切っていた人はだれなのでしょう。

○内閣官房副長官（安倍晋三君） それは、全体を仕切るといのはどういう意味でおっしゃっているのでしょうか。

○辻泰弘君 事務的なことも含めて、やはり今度の交渉のこういうことというのは、やはり一つの大きな、受け取るかどうかということも大きいわけですね。話によれば、人形だとか焼き物を日本側はお渡しになったと聞くわけですが、これだけトラック二台の大仰なものを、ある意味ではマスメディアでどぎもを抜くような、それにつながるような対応だと思わんですが、それを受け取るかどうかという判断はやっぱりあったと思わなうですね。いかがですか。

○内閣官房副長官（安倍晋三君） 私はその事実そのものを承知をしておりませんから、ですから、私も承知をしておりませんから、そのことをだれが判断したかということについてはお答えできません。

○辻泰弘君 事前通告で、昨日、このことについてそういう答弁はないようにしてほしいというふうに言ってあったことで、やはり調べて、そしてまた、現に拉致議連で齋木さんが事実関係を調査し結果を報告したいとおっしゃっているわけです。

それじゃ、外務省として、それはいかがですか、その調査をされているわけでしょうか。大臣。

○政府参考人（齋木昭隆君） 今の問題につきましては、外務省としても実際にそういうのを、ピョンヤン訪問に同行をした外務省の関係者、また準備に当たった者、それからまた総理官邸で訪朝に同行された方々も含めていろいろと話を聞いて事実関係の聴取にこれ努めておりますけれども、報道にありましたような先ほどの事実関係については、私どもとしてはまだ確認しておりません。

○辻泰弘君 もう齋木さん、私要求していなくて来ていただいて恐縮ですけれども、もう既に四日から五日ぐらいたっているわけですね。その間、こういう簡単なことの実事調査といのは何があるんですか、そんなに時間が掛かることでしょうか。

○政府参考人（齋木昭隆君） 報道されていることが本当に事実なのかどうかといのはやはり慎重にきちんと調べないといけないと思わなうから、大勢の関係者、これはきっちり話を聞くといこと、大事だと思わなうから、今それをやっておるところでございます。

○辻泰弘君 もちろん通告していたことでございますけれども、そうしたら、いつまでに明らかにしていただけますか。

○内閣官房副長官（安倍晋三君） この問題につきましては、私は現段階では全く承知をしておりませんが、いずれにいたしましても、そうした先方からいただいたお土産の中身等々について、こちらからそれをどのようにしたか、どういうふう処置をした、あるいはまたどういう中身であったかといことを公にするかといことについては、これは、当然私は議論があるところだろうと、こういうふう思わなう。

○辻泰弘君 齋木さんは議連で報告をするとおっしゃっているわけですがけれども、それはそういう御予定でいいですか。

○国務大臣（川口順子君） これについては、安倍副長官のお話もございましたし、外務省とし

て官邸と御相談をしながら対応したいと思います。

○辻泰弘君 私は、今回のこのこと、異常なまでの大量のお土産というのをノーチェックで言われるままに持ち帰ったんじゃないかと思われるわけですが、その主体性のなさといいますか、見通しの悪さというか、またそれに伴う事実を明らかにしようとしなない秘密主義、また国民への誠意のなさ、事後の対処のお粗末さというものを本当に痛感するわけでございます。言うなれば、拉致問題に言及しない平壤宣言、また一方的な死亡通告、そしてこのマツタケと、いずれも相手のペースのままに、そのまま日本に持ち帰ったと。どうなるかと、そういうことの見通し、判断が十分なかったということが共通しているのではないかと、このように思うわけでございます。

これからの交渉の過程で主体的な外交姿勢、筋の通った毅然とした対応、ありのままの真実の国民への伝達、公開、このことを政府に求めて、私の質問を終わらせていただきます。